



ももの実

玉北中 校長だより 33

「人権とは。」

作成日 令和8年6月5日（金）



いざの備えを。

5月29日（金）には、1学期中間考査がありました。これまでは5教科でしたが、理科が学習評価において**日常の単元テスト等を重視する方針**としたため、それ以外の4教科のテスト（国・社・数・英）を1日のみで実施しました。そしてその午後には、**避難訓練**を実施しました。第1回の今回は、**地震の発生を想定**としています。私（石井）は全校に対して次の話をしています。

今回は、「気象庁から『緊急地震速報』が発令された。」ことを想定した訓練でした。

- 1、『揺れに備え、落ちてくるものから特に**頭を守るため、机の下などの安全な場所を確保する。**』
- 2、『正しい情報を得るために、**しゃべらず放送や指示の声が通るようにする。**』
- 3、『事前に校内の**避難経路を正しく理解**しておき、実際にその通りに速やかに移動する。』
- 4、『今回は、揺れが収まり、津波の危険性がない』ことを想定していましたが、岡山県が公表している「南海トラフ巨大地震（マグニチュード9.1）」による津波浸水予想区域によると、**最大津波高は海拔3.2mを想定**しているようです。場合によっては、**徒歩でくらしき作陽大学などの高台へ移動する水平避難**、時間的に切迫して水平避難が困難であれば、命を守るために**建物内のより高いところへ移動する垂直避難**をしなければならないという心構えをもっておかなければならない。』ということです。



皆さんの人生では今後も災害をはじめとした「いろいろな変化や危険」があると思います。それは「いつ」や「どんな」…の予想がつきにくいものが多いです。私たちの心構えとして、「**常に備えよ**」の精神が大切だと思います。今回は、地震から運動場への移動というパターン学習でしたが、それ以外の危険に出会ってしまったら、『今回の場合、**命を守るために何がより最善か**』について落ち着いて考え、判断し、実行しようとする力を持つておくことが重要です。

心に響きました。

6月初旬は、本校が独自に設定した『**人権週間**』でした。2日（火）からの4日間は、地域ボランティアの方が日替わりで、『**人権作文**』の優秀作品を全校放送にて読んでくださいました。ボランティアの方の写真とコメントをそれぞれご紹介します。

①6月2日（火） 広島県中学3年生 『便利さとやさしさ』

西野 恵子 先生

今回は、貴重な体験をさせてくださり、大変ありがとうございました。この作品の作者はセルフレジでの体験から改めて人権の大切さを自覚しました。私たち高齢者にとっては身につまされる内容であり、より気持ちを込めて伝えさせていただきました。



②6月3日（火） 茨城県中学3年生 『人権について考えたこと』

西 誓子 先生

小学校時代の卒業アルバムの写真をスマホで撮影し、グループラインにあげたことが発端に。学級で前向きな話し合いがあり、より良い学級をつくるきっかけとなった。『人権』は遠くのものではなく、身近な問題であることに気がつき、『人権』という視点で考えられればと思う。



③6月4日（木） 福島県中学3年生 『理解からはじまること』

森元真紀子 先生

耳の不自由な方を支える家族のあり方、人が本当の意味で絆を深めるには…。私自身も年を経て身体的・機能的に弱っていく中で、自分自身の生き方についても考えさせられました。“ゆめさん” 親子が、今後充実した生活ができることを願っています。



④6月5日（金） 茨城県中学3年生 『「物差し」を捨てる時』

西原 郁子 先生

これは、『無意識の偏見（アンコンシャス・バイアス）』というものについて書かれた作品です。今回、この作品を読ませていただいて、私の中にもそれが多々あることを改め気づきました。今回の取り組みで子ども達に少しでも伝われば幸いに思います。

